

吉岡 徳仁

<http://www.tokujin.com/>

デザイナー

1967年佐賀県生まれ。倉俣史朗、三宅一生のもとでデザインを学び、2000年吉岡徳仁デザイン事務所を設立。デザインからアート、建築まで、既存の領域を超え、あるいは往還しながら行われる実験的で革新的なクリエイションによって生み出された作品は、国内外を問わず高く評価されている。2001年に発表した紙の椅子「Honey-pop」が世界の注目を浴び、2006年には繊維の構造体を塗で焼く「PANE Chair-パンの椅子」を発表。2002年から手がけている、ガラスのベンチ「Water Block」は2011年よりパリ・オルセー美術館の印象派ギャラリーに常設展示されている。2007年から取り組んだ「Crystallized Project」では、自然構造から造形を生み出す試みによって、結晶の椅子「VENUS」をはじめとする作品群を制作した。また、ISSEY MIYAKEをはじめ、SWAROVSKI、Cartier、Hermès、LEXUS、など、ワールドブランドのプロジェクトを手がけ、イタリア・ミラノで開催されるミラノサローネでは、カルテル、モロゾフ、ドリアダ、カッシーナ、グラスイタリア、デサルトなど有名家具ブランドとのコラボレーションで新作を発表している。2008年には21_21 DESIGN SIGHTでの「セカンド・ネイチャー」展の総合監修を手がけ、2010年には、韓国・ソウル市にて「Tokujin Yoshioka_SPECTRUM」、森美術館では「ネイチャー・センス展」が開催された。さらに、Cartierとのコラボレーションとして、2009年からは特別展「Story of...」(東京国立博物館 表慶館、2009年)、2011年からは世界を巡回している「CARTIER TIME ART」展(チューリッヒ:パルリーザ美術館、2011年、シンガポール:アートサイエンスミュージアム、2012年、上海:Power Station of Art、2014年)にて、総合監修、アートディレクションを務めている。2013年には東京都現代美術館にて、過去最大の回顧展「吉岡 徳仁ークリスタライズ」が開催された。主な受賞としては、2001年度毎日デザイン賞、平成18年度(第57回)芸術選奨文部科学大臣新人賞(芸術振興部門)Design Miami / Designer of the Year 2007、Elle Deco International Design Awards (EDIDA) / Designer of the Year 2009、TOKYO Design & Art ENVIRONMENTAL AWARDS 2010 / Artist of the Year、A&W Architektur & Wohnen / Designer of the Year 2011、Maison & Objet / Creator the Year 2012など多数。著書には、『TOKUJIN DESIGN』(東京:ギャップ出版、2002年)、『Tokujin Yoshioka Design』(ロンドン:東京:Phaidon Press、2006年)、『みえないかたち』(東京:アクセス・パブリッシング、2009年)、『TOKUJIN YOSHIOKA』(ニューヨーク:Rizzoli International Publications、2010年)、『TOKUJIN YOSHIOKA_Crystallize』(京都:青幻社、2013年)がある。また、TBS系ドキュメンタリー番組「情熱大陸」への出演(2010年)や、アメリカNewsweek誌日本版による「世界が尊敬する日本人100人」(2007年)、アメリカ経済誌『Fast Company』の「The 100 Most Creative People in Business 2010」にも選出されている。

主な受賞

2002 -2001年度毎日デザイン賞、東京

2007 -平成18年度(第57回)芸術選奨文部科学大臣新人賞(芸術振興部門)、東京

2007 -Design Miami / Designer of the Year 2007、マイアミ

2008 -Wallpaper Design Awards 2008 / Best furniture designer、ロンドン

2009 -Elle Deco International Design Awards / Designer of the Year 2009、ミラノ

2010 -TOKYO Design & Art ENVIRONMENTAL AWARDS 2010 / Artist of the Year、東京

2011 -A&W Architektur & Wohnen / Designer of the Year 2011、ケルン

2012 -Maison & Objet / Creator of the Year 2012、パリ

主なパーマネントコレクション

ニューヨーク近代美術館(MoMA)(ニューヨーク)

ボンビドゥー・センター(パリ)

ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館(ロンドン)

クーパー・ヒューイット国立デザイン博物館(ニューヨーク)

サンフランシスコ近代美術館(SFMOMA)(サンフランシスコ)

東京都現代美術館(東京)



©MASAHIRO SANBE

[展覧会] 2015年7月2日[木]-8月2日[日]

開館時間 = 9:30-18:00

休館日 = 月曜日 ※7月20日(月)・祝開館、翌21日(火)休館

観覧無料 | 作家によるギャラリートーク7月2日(木) 13:30-

[お問い合わせ・アクセスガイド]

佐賀県立美術館 <http://saga-museum.jp/museum/>
〒840-0041 佐賀市城内1-15-23 / tel.0952-24-3947

JR佐賀駅より南へ徒歩約30分

佐賀駅バスセンターより市営バス利用1番のりば「佐賀空港」、

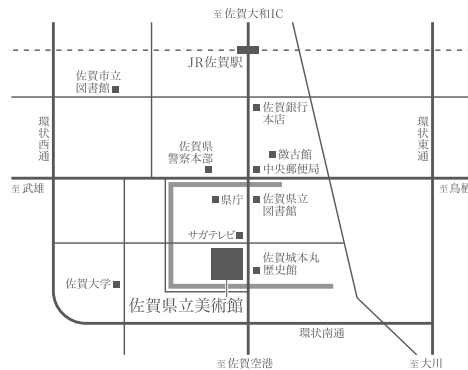
または、3番のりば「平松循環」「広江・船崎」→「博物館前」下車、徒歩1分

市営・昭和・祐徳・西鉄バス→「県庁前」下車、南へ徒歩10分

佐賀空港→市営バス「博物館前」下車、徒歩1分

主催 = 佐賀県立美術館 / 佐賀新聞社 / サガテレビ

企画協力 = 株式会社吉岡徳仁デザイン事務所



TOKUJIN YOSHIOKA



吉岡 徳仁展 - トルネード

2015年7月2日[木] - 8月2日[日] | 佐賀県立美術館

Thursday, July 2, 2015 - Sunday, August 2 | Saga Prefectural Art Museum

TOKUJIN YOSHIOKA_TORNADO

このたび、佐賀県立美術館のリニューアルを記念して、「吉岡 徳仁 展—トルネード」を開催いたします。吉岡徳仁は佐賀県に生まれ、1986年桑沢デザイン研究所を卒業後、倉俣史朗、三宅 一生のもとでデザインを学び、2000年に吉岡徳仁デザイン事務所を設立しました。早期から20年以上にわたり ISSEY MIYAKEの展覧会やスペースデザインを手がけながら、吉岡徳仁デザイン事務所設立以降はその活動範囲をさらに拡大し、デザイン/アートの領域を超えて世界的に著名なブランドとのコラボレーションを実現していきます。自由かつ大胆な着想と実験的な手法により生み出された作品の数々は、平成18年度(第57回)芸術選奨文部科学大臣新人賞(芸術振興部門)、2001年度毎日デザイン賞、Design Miami / Designer of the Year 2007、Maison & Objet / Creator of the Year 2012など、国内外を問わず多数の賞を受賞するとともに、ニューヨーク近代美術館(MoMA)、ポンピドゥー・センター、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、東京都現代美術館など、世界の主要な美術館に永久所蔵されています。吉岡はこれまで、水や風、雲などの雄大な自然現象や不定形の感覚に着想を得、それらを最もシンプルな素材と表現のなかに再構成することを追究してきました。緻密な計算と、自然が造り出す偶然の交わりのおかげに生まれる美しい作品群は、常に見る人に驚きを与え、グローバルな反響をもたらしています。さらに今春には、2011年の第54回ヴェネツィアビエンナーレにてデザインが発表された「ガラスの茶室—光庭」が、構想から5年を経て、京都市の將軍塚青龍殿に完成。自然と共に生み出される時間を知覚化し、日本独自の自然に対する解釈とその空間性に迫ることで、新たな境地を拓きました。

九州初の個展となる本展では、新しくなった佐賀県立美術館の展示室に、吉岡の代表作のひとつであるインスタレーション「TORNADO」が出現します。200万本を超えるストーリーによって作り出される巨大な竜巻が、空間と響き合いながら生み出すハーモニーをお楽しみください。さらに、2001年に発表し世界の注目を浴びた紙の椅子「Honey-pop」、パリのオルセー美術館に常設展示されているガラスのベンチ「Water Block」、自然構造によって生み出された結晶の椅子「VENUS」など、代表的な作品群を併せて展示します。

2007 | TORNADO | トルネード



2001 | Honey-pop | ハニーポップ

わずか1センチに積層された120枚の紙から成る《Honey-pop》は、展開することでハニカム構造の立体が現れ、人がそこに腰かけることによって、人体の形状が記憶され椅子のフォルムが完成する。薄く破れやすい紙という素材が、ハニカムという自然界の構造を得ることで人体の重みを支えうる強度を獲得する。さらにそこに「座る」という一見簡潔な行為が加わることで、はじめて構造が椅子としてのかたちと意義を与えられる—シンプルな素材からデザインが生まれる過程に、幾重もの創造が潜む作品である。吉岡の代表作でもあるこの椅子は、ニューヨーク近代美術館(MoMA)、ポンピドゥー・センター、ヴィトラ・デザイン・ミュージアムなどで永久所蔵品に選定されている。



2002 | Water Block | ウォーターブロック

ひとつの巨大な水の塊から削り出されたかのような強い存在感を放つ、ガラスのベンチ。素材が固まる瞬間につくりだされる偶然の美しさは、そよぐ風が水面につくりだす波紋のようなきらめきを放ち、周囲の環境と調和する。2011年のオルセー美術館における印象派ギャラリーのリニューアルプロジェクトに伴って制作された本作を皮切りに、吉岡は《雨に消える椅子》(六本木ヒルズ)、《Waterfall》など、ガラスという素材を通じて水や光の持つさまざまな表情を切り出してみせた。



2008 | VENUS-Natural crystal chair | ヴァイナス

2007年より着手された「Crystallized Project」において、吉岡は自然の結晶構造を成長させることで造形を削りだす試みを行い、人間の想像を超えた自然が生みだす偶然の美しさを作品に昇華、結実(crystallize)させた。水槽のなかで細かな結晶が層となり、まるで神話の女神が現れるように、ゆっくりと椅子の形を現す本作。光を孕み、刻々と表情を変化させながら静かに佇む椅子の姿は、人間が素材を支配するというこれまでのものづくりの概念を超えて、圧倒的な自然の存在を私たちに感じさせる。